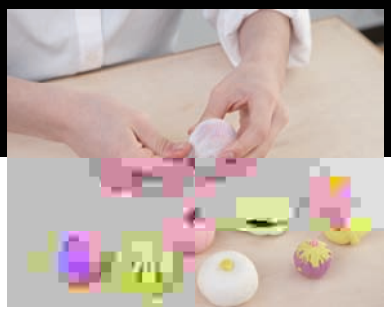
中学校美術科

開隆堂が目指すもの
文化の主体者を育てる美術教育



和菓子のデザイン
生徒作品（紙粘土、アクリル絵の具、封入用樹脂　各高さ２～３cm）
和菓子は季節の風情や植物などを単純な形と繊細な色で表している。紙粘土などでオリジナルの和菓子をつくり、そのデザインセンスを学びます。

「生きる力」は、決して自分自身のためにだけに必要なのではなく、他者とともに生きるために求められているのです。そして、その繋がりこそが文化を創造し、育んでいくことなのです。

大坪圭輔（武蔵野美術大学教授）

開隆堂

美術文化を受け継ぐ、広げる、創造する

大坪圭輔（武蔵野美術大学教授）

■文化の意味

「文化」ということばの意味が広がっています。書籍や博物館で出会う「歴史的文化」だけでなく、テレビなどから絶え間なく流される現代の「流行文化」があり、そしてさまざまな現象を簡単に括った「○○文化」ということばがあります。また、わが町や地域の文化を掘り起こし、地域の活性化へと繋げようとする動きも活発です。文化について学び、文化について考える教育が必要な時代です。

『中学校学習指導要領解説美術編』では、「美術においては、古くからの美術作品や生活の中の様々な用具や造形などが具体的な形として残されており、受け継がれてきたものを鑑賞することにより、その国や時代に生きた人々の美意識や創造的な精神などを直接感じ取ることができる。それらを踏まえて現代の美術や文化をとらえることにより、文化の継承と創造の重要性を理解するとともに、美術を通した国際理解にもつながることになる。」と解説しています。さらに、「美術科は文化に関する学習において中核をなす教科の一つであるといえる。」としています。

■文化と学習指導要領の理念「生きる力」

文化は、人と人の繋がりや人と自然とのかかわりの中で生まれ、長い時間をかけて育まれます。そこにはそれらを受け継ぎ、また新たな胎動を生み出すために、継続するという人としての営みが必要です。ひとつの文化はまた新たな文化を生み出す母体となり、古の時代の人々もそうであったように、現代を生きる我々もまた、現代の文化を生み育てる創造者です。すなわち、文化について考え、文化を創造することは、自身の生き方そのものを考え、創造することでもあるのです。

現代の複雑な社会を生きるために、子どもたちに育むべき「生きる力」は、決して自分自身のためにだけに必要なのではなく、他者とともに生きるために求められているのです。そして、その繋がりこそが文化を創造し、育んでいくことなのです。

■美術文化の学習

中学校学習指導要領、美術、第２学年及び第３学年の鑑賞には、「美術を通した国際理解を深め、美術文化の継承と創造への関心を高めること」が示されています。これは教育基本法の改正で教育の目標に伝統と文化を尊重する態度を養うことが加えられたことを受けて、今回の改訂の要点のひとつとして重視されている内容でもあります。

この内容を実際に授業として展開するとき、美術文化の具体的な対象物である様々な時代の美術作品についてその知識を増やすだけでは、本質的な美術文化の学習にはなりません。つまり、学習は知識を増大させることだけでは成立しないのです。次の学習段階である文化を創造する者としての自己認識が重要です。特に美術文化の学習では、文化の主体者としての意識を育てることが求められているのです。

■主役は中学生

教科書では日本の自然と人々が育んできた様々な我が国の美術文化を、多くのページを使って紹介しています。現代を生きる中学生にとって、伝統によって育まれ洗練されてきた日本の美術文化は、新鮮であると同時に、改めて身近な存在とし↗

（次ページへ）

和の心を伝える

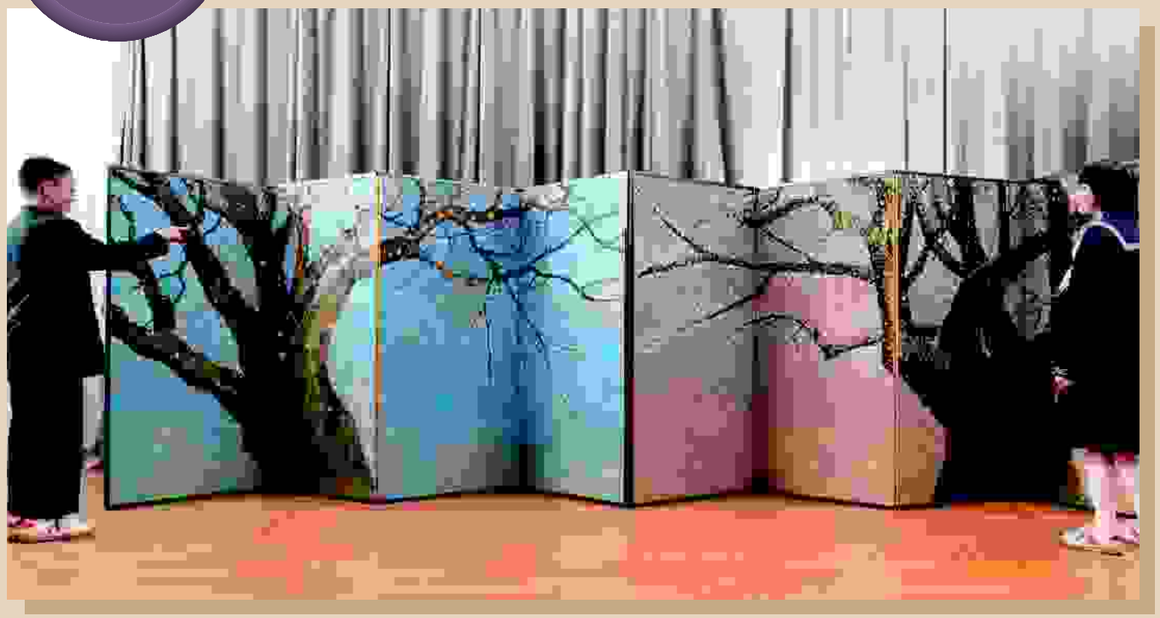
薄青地鱗文扇散衣装デザイン（ポスターカラー、画用紙　33.5×24cm）　生徒作品
日本独特な文様とその意味を学び、季節感や願いを込めて着物のデザインに挑戦します。

扇のデザイン（水彩　長さ 10～30cm）生徒作品
「和」の言葉には、日本を表すとともに、なごやかさやおだやかさの意味もあります。その心を伝える伝統的な美術や文化を調べて、花や虫、風景を題材として四季の風情を扇面に表現しています。

貝合わせ（アクリル絵の具、蛤の貝殻）　生徒作品
貝合わせは、平安時代に生まれた遊びです。日本の美術の様式や素材を受け継ぎ、現代的なよさや美しさを生かす工夫をして表現しました。

屏風絵を描く

日本の美術を代表する屏風にはさまざまなものが描かれます。風景の一部だけを描くことで、無限の広がりを感じさせるように自分たちで構成を工夫しました。



桜詞図屏風（左隻「旅立ち」、右隻「再会」）（四曲一双　アクリル絵の具、顔料　各 180×365cm）　生徒作品（共同制作）
桜の巨木から花びらが風に舞っている。恒例の学校行事である百人一首大会で毎回会場に飾られている。

大坪圭輔（おおつぼけいすけ）　武蔵野美術大学教授
1953 年、長崎県生まれ。武蔵野美術大学大学院修了。東京都公立中学校教諭、東京大学附属中等教育学校教諭を経て現職。長年、開隆堂中学校美術科教科書の編修に携わり、現在、著者代表として、生徒一人ひとりが文化の主体者としての自負を持てるような美術教育を追求している。

てそのよさを味わうことができるものだと思います。そして、そこからさらに新たな創造が生まれることを期待しています。

また、自分たちが生活するそれぞれの地域にある美術文化に注目し、そこからの学びを軸にして、他の地域や他国の美術文化へと視野を広げることも大切です。特に、地域における中学生という観点から言えることは、地域の伝統や文化を受け継ぎ、広げ、創造するまさにその主役であるということです。文化にはもともと教育的な要素が含まれています。かつては地域のお祭りや伝統行事などを通して子どもたちが成長し、やがて地域を支える頼もしい存在となりました。美術科における美術文化の学習を通して、再び中学生達が地域文化振興の主役となることを願っています。

■試してみること

近年の教育状況を概観し、最も気になることのひとつに、失敗する経験が子どもたちに少ないことがあります。教育も効率化が求められる時代にあって、失敗から学ぶことを許される場や時間が少なくなっているようです。「百聞は一見に如かず、百見は一試に如かず」ということばがあります。学校や地域を支える存在となる中学生には、失敗を恐れず試してみる、そしてそこから学び取る意欲的な姿勢を大切にしてほしいと思います。

文化とは、人が自らの生き方を自ら切り開こうとするその主体的な姿勢から生まれてくるものです。「試してみること」、これがこれからの美術文化学習のキーワードなのです。

夢を形にするキャリア教育

美術の学習は、ただ単に上手に絵や作品を制作することだけではありません。発想する力や創造する力を身につけたり、表現の違いを認め合いながら文化的な価値を考えたりします。そうして身につけたさまざまな力がこれからの生活で生かされていくのです。

［中学校美術科教授用資料］AA

開隆堂出版株式会社　http://www.kairyudo.co.jp
本　　社　〒113-8608　東京都文京区向丘 1-13-1
TEL.［代表］03-5684-6111　［編集］03-5684-6117　［営業］03-5684-6121, FAX 03-5684-6122
北海道支社　〒060-0061　札幌市中央区南一条西 6-11　札幌北辰ビル 8 階　TEL.011-231-0403
東 北 支 社　〒983-0043　仙台市宮城野区萩野町 1-11-1　萩野町 M ビル 2 階　TEL.022-782-8511
名古屋支社　〒464-0802　名古屋市千種区星が丘元町 14-4　星ヶ丘プラザビル 6 階　TEL.052-789-1741
大 阪 支 社　〒550-0013　大阪市西区新町 2-10-16　TEL.06-6531-5782
九 州 支 社　〒810-0075　福岡市中央区港 2-1-5　FYC ビル 3 階　TEL.092-733-0174